

2012. 6月
No. 10

satogawa

特集

さとKawa&
さとmoriあそび4・5

1. コーフ共催企画第2弾!
コウモリナイトinパラ
イス宿泊!

2. コーフ共催企画第3弾!
星置川の数万年地形を
知る!

その他

・さとKawaあそび6

手稲山麓川の生きもの探し

・さとmoriあそび7

手稲山麓の森でタネ探し&
タネまき

連載

かたつむりらぼ 第3回



特集1 コーフ共催企画第2弾 2011/7/30. 31

さとKawa&moriあそび4

コウモリナイトinパラダイスヒュッテ

今回は北海道大学大学院農学研究院森林管理保全学講座、農学博士の赤坂卓美さんと山中聡さんをお迎えし「コウモリ観察」を行う。また日中は川での生きもの探しと「川流れ」を行い、その後手稲山にある山小屋パラダイスヒュッテへ移動し、宿泊。翌日解散の2日間。

まずは朝から星置川で生きもの探しだ。札幌市と小樽市の境目に位置する都市の中の河川にはどんな生きものかいるのだろうか? 最初に子ども達が見つけたのは、水際で水中から草が生えているようなところで、ウキゴリやスジエビたち。そして、少し流れがないところでは、フクドジョウやヤツメウナギがにょろにょろ出てくる。そして、川流れの時間だ。川流れは全身が川につかるため、子ども達は一瞬大丈夫か? という不安に駆られるが、一度流れてしまうと、もう怖いモノはなくなるのだろう。もう全身ずぶ濡れなのだから。その一回を乗り越えた子供達は何度も何度も流れて、すぐに流れ方が上手になる。日中の活動が終わるとパラダイスヒュッテに向かい、泊まりの準備を済ませる。

コウモリを研究している北海道大学大学院の赤坂卓美さんと山中聡さんが駆けつけ、いよいよコウモリナイトの始まりだ。夜のカッコウの森でバットディテクターを持ち歩き出す。ライトをつけないで歩きだすと意外と夜の森は真っ暗ではないことに気がつく! 月の明かりだけで歩けるものなのだと、気がついた。すると突然バットディテクターがフフフッと鳴り響く! 電子的で野性的な音に一同が立ち止まり耳を澄。



が立ち止まり耳を澄ますが、少しの間真っ暗な森に沈黙が続き、フフフッと再び鳴り響く! コウモリの超音波である。バットディテクターとはコウモリが出す超音波を人間の耳でも聞こえる様にする探知機。コウモリが餌の蛾や昆虫を探している時に発する超音波。この超音波によってある程度コウモリの種類が判別できるとのことだ。みんな、初めて間近でみるコウモリに興奮し、その行動や生態は未だに解明されていないことに驚いた。札幌の街にもいろんなサカサバ達やコウモリ達は隠れて生活している。意外と身近にいる野生生物に気づけば、もっと楽しく自然を体験できることだろう。パラダイスヒュッテの中では、コウモリの標本、骨、模型などを見たい触ったいしながら更に生態について説明を受けた。羽の様な部分が皮膚と知ることが出来、顔も愛嬌があると知る。参加者には、観察前と、観察後に同じコウモリの絵を書いてもらい、ほとんど実物を見たことのない生きものをどの様に認知しているのか、また実際に観察後ではどれ位のイメージの差があるのかを知る事が出来ると考え実施した。

観察後では指の本数や、手足の場所等が細かに描かれていて興味深かった。愛着が増している様子も伺えた。これも成果の表れだと感じている。

(記事 笹森 健木)

特集2 コーブ共催企画第3弾 2011/8/28(日)

星置川の数万年 地形の変遷とざわめく川の生きもの

～川歩きと模型実験で時を旅してみよう～

たくさんの生きものが棲む手稲山とそこから流れる河川。この100年くらいは、人間の活動によって自然は改変されその生息環境は大きく変化した。それよりずっと前、手稲山ができてから長い月日の間、山肌は雨風に削られ土砂は川から海へと運ばれ5千年くらい前の海面上昇でその土砂が海に削られ、その後地球の温度が下がり海面が後退して現在の地形になったと言われる。その長い時の流れを、元筑波大学教授で地形学者の池田宏さんをお迎えし、現地歩きと模型実験で星置川と周辺の地形の変遷を見ていくプログラムだ。前半は星置の滝～星置神社～星置会館と歩き、星置の地形を体感し、数キロメートル数万年の旅に出る。午後からは砂や石模型実験を行い地形の変化を見ていく。星置の滝。ここは安山岩という火山で出来た溶岩が固まった岩でできている。岩は固いが川によって少しずつ削られて後退し、滝は上流側に移動してきて今の位置にあるようだ。今ある場所に昔は無かった滝の姿は非常に興味深く、違った視点から見ることによって印象も変わってくる様な気がする。星置神社へ到着。海の方を見下ろしてみる。5号線の向こう側が平地になっている様子がよくわかった。

今通って来た崖が波によって出来た「海岸段丘」だと聞き、参加者からも驚きの声が出た。6000年前の人はここから海を見下ろしていたことになる。ちょうど今の銭函のように…。星置会館まで降りてきたところで、星置川にて生きもの探しを開始。子ども達のお楽しみな時間が始まり、歓声とともに水しぶきが上がる。この日の確認された生きものはヤツメウナギ、ヤマメ、ヌマキチフ、ウキゴリ、カンキョウカジカ、モクスカニ、スジエビ、カワニナ、コオニヤンマ等。歩いた後なので、水の中が気持ち良い。日差しもあり、その後の水槽で行う観察もゆったりと聞くことが出来た星置会館に戻ってから、いよいよ模型実験。今歩いてきた道のりを、実験で更にわかりやすく説明を受ける。池田先生のテンポのあるお話は興味深く、大人も子どもも真剣な眼差し。宏さん(池田先生)の使う実験装置は奥さん美佐子さんのアドバイスで誰もが安く作れるように簡単に手に入る材料(コンパネ、アクリル板、洗濯用のポンプなど)で手作りされている。水や、砂や石ころがどんどん流れてくる。先生のスイッチオン!の声で子どもたちのわくわく度も高まり、歓声が上がる。

「これが今、土石流発生の瞬間!」という声に、大人たちが少しどよめく。土砂を入れてそれがどんどん流れる元気な川は、蛇行したり真直ぐになったり流れを変え地形も変わっていくが、土砂を入れるのを止めて土砂の出ない川にすると、流れは単調になり一か所だけ掘れていく。氷河期と、暖かい間氷期との違いが手にとるようにわかる。そして小さい石より大きい石の方が実は早く流れることや、大石と小石(実験では砂利と砂)が混ざっていると削られやすいことなど、不思議なことが次々目の前で見せてもらった。模型実験で、より詳しく地形の変遷を探る事が出来、子ども達の関心度もかなり高かった。小さい子どもでも、水が流れていく様子や砂や砂利が転がって行く様子を見て、体感できたのではないかと思う山が緑で覆われた現在、さらにダム、治山、治水工事などによって河川に土砂が急速に供給されなくなったために、河川、河底が削られてしまう「河床低下」が全国いたるところの河川で起こっている。岩盤が露出して、川の生きものの生息場所、産卵場所が著しく減っており、大きな問題となっている。

(記事 姫田 丞)



さとkawaあそび6

手稲山麓 川の生きものさがし

(中の川・三樽別川) 2011. 9. 18(日)



今日はあいにくの雨で予定していた中の川に入っの生きもの探しが出来なかった。残念だったが、スタッフがあらかじめ川に入って採取していた生きものを観察し、解説を聞いた。マメシジミやヌマエビ、イバラトミヨ、ウキゴリ、クロマダラカゲロウやアカマダラカゲロウなどが見られた。場所を移動して三樽別川に入ることになり、少し雨があがってきたので予定通り生き物さがし。川の特徴や形状が違うため、また違った生き物も探ることができる。流れのある川なのでカゲロウやトビケラなどの水生昆虫が多く見られた。千カゲロウ、モンカゲロウ、ハナカジカ等。観察後のお昼はちゃんちゃん焼でとてもおいしかった。いつもより多めに観察の時間を取っていただけに、天気が思わしくなかったのが残念だった。今回参加してくれた新規の方には、また是非参加してもらって自然の中で川の生きものに会おう楽しみをもっと体感してもらえたらと思っている。2011年の川遊びはこの日が最終となったので2012年の始動が待ち遠しい。

中の川でこの活動の直後から始まった工事がこの冬も続いている。個人的に言うと、今年8歳になる息子が小さな頃から毎年、生きもの探しを楽しみにしている川だ。

さとmoriあそび7

手稲山麓の森でタネ探し&タネまき

2011. 10. 23(日)



手稲の山もすっかり色づき美しく輝いている。そんな葉っぱをひろい、ラミネートで見本を作り、またタネを採取して数をかぞえてテーターに残すため、手稲山へ出発した。子ども達には声をいっぱい出してもらうことにして…。

林に入ると落ち葉がいっぱい絨毯の様に広がっていた。ふわふわで何とも言えない感触。みんなでゆらゆら歩きながら午後からラミネートする葉っぱを拾った。シードラップを仕掛けてあったのでそれも回収。結構な量だったけれど

くらいの量はソーティング作業の際またお知らせしたいと思う。一度手稲コミュニティーセンターへ戻り昼食をとる。もつ鍋のいい匂いが部屋に充満。お腹が満たされたところでひろってきた落ち葉のラミネート作業に入る。子ども達が楽しさからどんどん作っていくのでおとなもせかされる様に作る。見本として保存用に多数作った。子ども達はそれぞれ持ち帰り。森をゆたたいと歩きながら、雨にきらきらと輝く落ち葉が美しく心から癒された。やがて雪が降り積もって、森の様子も変わってくるが、季節ごとの楽しみをその都度満喫したいと改めて思った。

第3回 かたつむりらほ

記事・写真 板田 丞

3.カタツムリの食事

今回はカタツムリの食事について紹介します。まず食事といえば口、では口はどこについているのでしょうか。口は下の触角(小触角)の根元付近にあります。カタツムリが透明の板の上を這っているときが見やすいでしょう。歯は歯舌と呼ばれ、おろし金のようになっていて、食べ物を削り取って食べています。そして糞は殻の入り口付近にある肛門からします。息を吸う呼吸口と肛門が近いです。

カタツムリはあまり消化の効率が良くないことと、血液に赤い色素がなく糞に血液の

代謝物の色素が入らないことのため、食物の色がそのまま糞の色に出やすいです。にんじんを食べると赤い糞をします。他の色の食材でも試して見たいですね。

食べ物は植物の葉や茎、コケやきのこなどを食べます。私が飼育していたときはきゅうりなどを与えると軟らかい切り口から食べ皮を残していました。硬い笹の葉などは食べませんでした。しかし、動きが遅いので選り好みせず近間にあるものを食べているのでしょうか、ジャガイモの皮やしいたげなども食べていました。また、殻の材料であるカルシウムを取るた

め石灰岩やコンクリートを舐めたいします。

さて、次回ですがカタツムリの住家について紹介します。カタツムリはどんなところに居るのでしょうか。

(つづく)



エゾマイマイ食事中



活動予告

7月7日(土)

川と林の生きもの調べ

7月28日(土)

川流れ&コウモリナイト

お問い合わせ

手稲さと川 HP

<http://t-satogawa.com/>

t-satogawa@mail.goo.ne.jp

代表 鈴木 玲

手稲さと川探検隊では

会員とボランティア・スタッフを募集しています。

1. 探検隊員：川の生きもの調べなどのイベントに参加する方
年会費：1人1,000円（ファミリー隊員 1家族1,800円）
※全てのイベント案内が届き、各イベントの保険代が無料となります。
2. 応援隊員：手稲さと川探検隊の活動を応援して下さる方
活動応援費：1口 500円
※イベント等のご案内、ニュースレターの送付などをさせていただきます。
3. ボランティア・スタッフ：各イベントの企画・実施サポート、広報などお手伝いして下さる方

※会員登録などは、直接もしくは以下へお振込み下さい。

北海道銀行 南1条支店(普通口座) 1107735
手稲さと川探検隊 代表 鈴木 玲
(テイネサトガワタンケンタイ ダイヒョウ ススキアキラ)

